

早稲田大学大学院政治学研究科ジャーナリズムコース博士後期課程

博士学位申請論文概要書

題目:多様な「報道の多様性」概念に関する理論と実証分析の接合

申請者:千葉涼

概要

本論文の目的は、ジャーナリズム論における多様性という概念について理論的に検討し、さらにそれを踏まえた実証的な分析手法を提案することである。ジャーナリズムに関する規範的な議論では、民主的な社会を実現するうえで多様な報道が重要な役割を果たすとされ、報道の多様性を高めることの必要性が論じられてきた。一方、主に実証的なコミュニケーション研究の文脈では、受け手が好ましい情報ばかりを容易に選り好みできてしまうことの問題も論じられてきた。また社会的弱者のエンパワーメントや正確な科学的知識の伝達といった点から見れば、多様な報道はむしろネガティブな意味を持つことが指摘されてきた。このように報道の多様性については両義的な見方が存在しており、それゆえに実証的なデータに基づいてどのような情報環境を構想していくかを議論することが重要である。

各章の内容は以下のとおりである。まず第1章では研究の目的と意義を示すために、ジャーナリズム論における多様性概念が両義的なものであることを論じ、より精緻な議論のために実証的なデータが必要であることを述べた。第2章では、報道の多様性を分析する際の枠組みを検討するべく、多様性概念そのもののバリエーションについて論じた。報道の多様性という概念はニュースコンテンツの多様性だけでなく、報道機関の組織的多様性や受け手の情報接触における多様性などさまざまな側面を持つ。またメディア単体での内的多様性と、複数のメディアによる外的多様性という区別もある。これらの点を整理し、多様性に関する分析を通じて何を明らかにしなければならないかを検討した。第3章では、報道の多様性を測定し実証的に分析するための手法を検討した。報道の多様性に関する従来の分析手法は、メディア間の差異と情報環境全体での多様性という視点を欠いていた。これを改善するために、本論文では生態系の生物多様性を測定するための $D_{\alpha} \cdot D_{\beta} \cdot D_{\gamma}$ という指標を導入できることを指摘した。第4章では、コンピュータを用いたテキスト分類の手法によって実際のニュース記事を分類し、前章で提案した多様性指標を測定した。その結果、全国紙の選挙報道ではメディア間の差異が小さいこと、ニュースポータルサイトは既存マスメディアと同程度の多様性を備えていること、政権に関する評価という点では近年になってメディア間の差異が広がっていることなどを明らかにした。そして第5章では、前章の分析で得られた選挙報道の多様性指標を、投票率や政党分極化の指標、世論調査といったデータと組み合わせて分析した。全体としては投票率が低い選挙ほど選挙報道が多様化するという傾向が見られたが、個々の受け手が接触したメディアの多様性に影響を受けたことを示す結果は得られなかった。また選挙報道の多

様性は、政党分極化の程度とは関連性がないことが示された。

本論文の学術的な貢献は、報道の多様性に関する理論的な知見を実証的な分析手法として昇華させた点にある。多様性概念に関する理論的な整理は国内においてあまりなされておらず、まずはその点において重要な貢献を果たしたと考えられる。さらに、生態系の多様性指標を情報環境に適用するという本論文の提案については、理論的な観点からその妥当性を主張するのみならず、実証的な分析を通じてその有効性を示すことができた。本研究の知見は、今後の実証的なジャーナリズム研究の発展に寄与すると考えられる。